

日本東洋美術史の資料学的研究(シ02)

目的 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究を行い、研究の基盤となる資料の整備を行う。あわせて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。

- 成果**
1. 逸翁美術館蔵白梅図屏風について調査を行った。
 2. 東京国立博物館蔵准胝観音像等の調査を実施した(2017(平成29)年2月23日)。
 3. 美術史研究のためのコンテンツ(日本絵画史年記資料集成)を作成するため平成11年以降の展覧会図録から年記のある作品の資料を順次収集し、入力を行った。
 4. 『記事珠』公開に向けてのパイロット版を作成するため、解説、註の作成を第2巻以降について行った。
 5. 本プロジェクトに関する研究会を行った(下記参照)。
 6. 東京国立博物館と実施してきた仏教絵画の共同研究を仏教美術全般に広げ、高精細画像の取得から光学調査全般を実施する体制に変更した。



「日本絵画史年記資料集成」
ウェブページ

論文・増記隆介：「十世紀の画師たち—東アジア絵画史から見た「和様化」の諸相」『美術研究』420 pp.1-30 16.12

・江村知子：「光琳の「道崇」印作品について—尾形光琳の江戸滞在と画風転換」『美術研究』421 pp.1-20 17.3

・安永拓世：「展覧会評 我が名は鶴亭」『美術研究』421 pp.21-30 17.3

発表・西木政統：「滋賀・鶏足寺七仏薬師如来像の造像をめぐる一考察」文化財情報資料部研究会 16.5.31

・津田徹英：「詞書の筆跡からみた遊行上人縁起絵—伝世諸本の位相—」文化財情報資料部研究会「遊行上人の位相」 17.3.28

刊行物・奈良国立博物館・東京文化財研究所編：『法華山一乗寺蔵 国宝 聖徳太子及天台高僧像光学調査報告書—カラー画像編』 16.4

・奈良国立博物館・東京文化財研究所編：『法華山一乗寺蔵 国宝 聖徳太子及天台高僧像光学調査報告書』 17.3

研究組織 ○小林達朗、佐野千絵、二神葉子、小林公治、塩谷純、皿井舞、安永拓世(以上、文化財情報資料部)、近松鴻二、中野照男(以上、客員研究員)